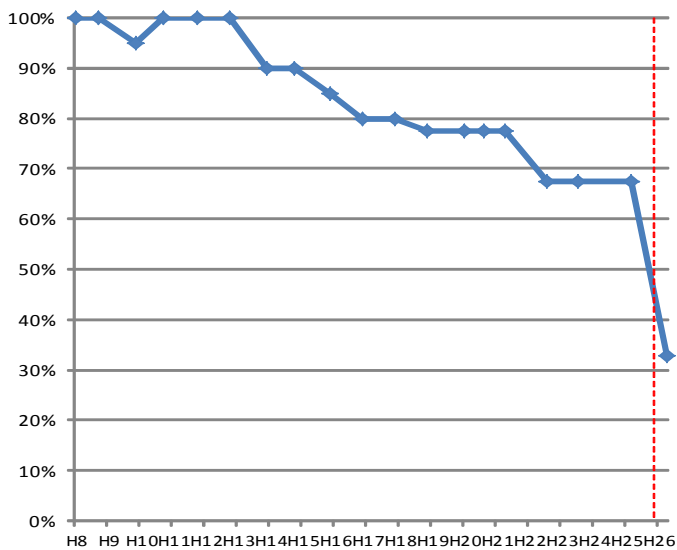


樹種名	ムクノキ（別名：ムク、ムクエノキ）		
科 目	ニレ科		
学 名	<i>Aphananthe aspera</i>		
分 布	関東以南の本州から四国、九州でごく普通に見られ、屋久島、種子島、沖縄に分布する。		
樹木特性	陽樹であり、暖地生の木で、沿岸地域のほか、渓谷沿いの増水時にも浸かるような場所でも生育する。成長は早い。		
用 途	公園樹、建築・器具・楽器材として利用。	  	
植栽本数/面積 （植栽密度）	275 本／ 0.08ha （約 3,000 本／ ha）		
特 徴	【樹 形】 ムクノキ（椋木、椋の木、椋樹）はニレ科ムクノキ属の落葉高木。 雌雄同株で高さは 20m 以上、幹の直径は 1m 以上になり、板根が発達する場合もある。 樹皮は淡灰褐色で、表面は平滑だが樹齢に伴ってすじや割れ目が生じ、老木では樹皮が剥がれてくる。 葉は互生し、長さ 4~10cm の卵形又は狭卵形で、縁は先端まで鋸歯状、葉脚はくさび状、3 行脈を持つ。葉の質は薄く、表面は細かい剛毛が生え、紙やすりのようにざらついている。向陽適潤地を好む。材は強靱で天秤棒に用いられたほか建築・器具材として、葉は研磨用に利用される。		
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽 5 年後から環境要因と思われる枯死が見られた。成長状況は良好であるが、個体毎の成長に優劣の差が顕著に見られる。		
被 害	病虫獣害の痕跡は見られず、特になし。		

ムクノキ 現存率



【現存率】

植栽直後に枯死が発生したことから平成 10 年に補植（20 本）を実施した。このことにより平成 11 年度の現存率が上がっている。

林内の照度調整を図るため、平成 22 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 32.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

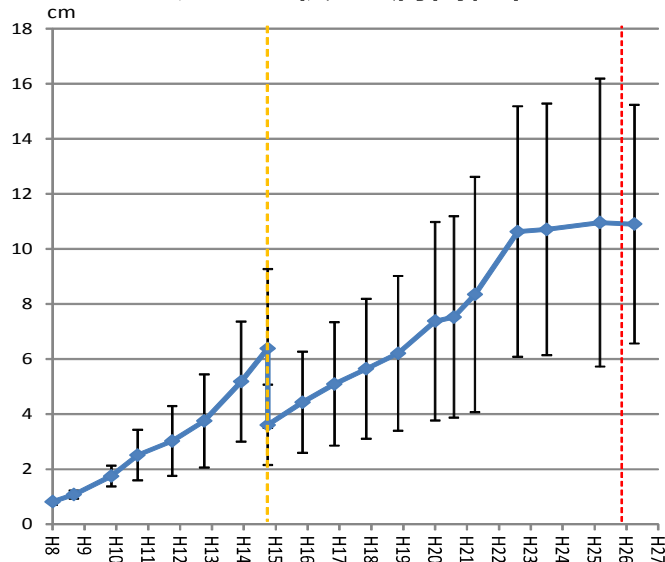
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は、10.90cm であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ムクノキ 根元・胸高直径



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は、7.34m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更のため、データの連続性はない。

ムクノキ 樹高

